

三宅島

概況(平成17年1月)

引き続き山頂火口から火山ガスの放出が続いています。

連続的に発生している火山性微動に大きな変化はなく、山頂直下の火山性地震の活動は継続しています。また、三宅島の収縮を示す地殻変動は、2002(平成14年)年以降徐々に小さくなり、最近も大きな変化は見られません。

三宅島の火山活動は全体として大きな変化はなく、山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は若干の低下傾向が見られるものの、火山ガスの放出は継続すると考えられますので、風下では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。

表1 三宅島 火山情報発表状況

火山情報名	発表日時	概要
火山観測情報第1号 (1日1回発表)	1日 16:30	噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想
火山観測情報第3号	3日 16:30	
火山観測情報第4号 (1日2回発表)	4日 09:30	噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想
火山観測情報第59号	31日 16:30	

火山ガス噴出活動及び火口内の温度の状況

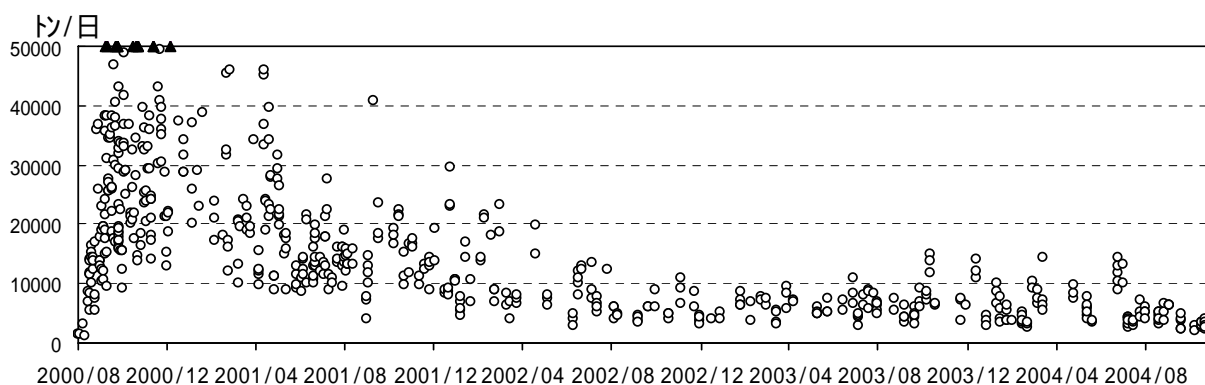
1月に実施した二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果は次のとおりです。(表2、図1、2)

二酸化硫黄の放出量*は、2002年秋以降、1日あたり3千~1万トン程度で横ばい傾向が続き、2004年秋以降、1日あたり2千~5千トン程度とやや少なくなっていますが、依然として多い状態が継続しました。

*海上保安庁、警視庁、東京消防庁、陸上、海上及び航空自衛隊の協力による

表2 三宅島 二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果

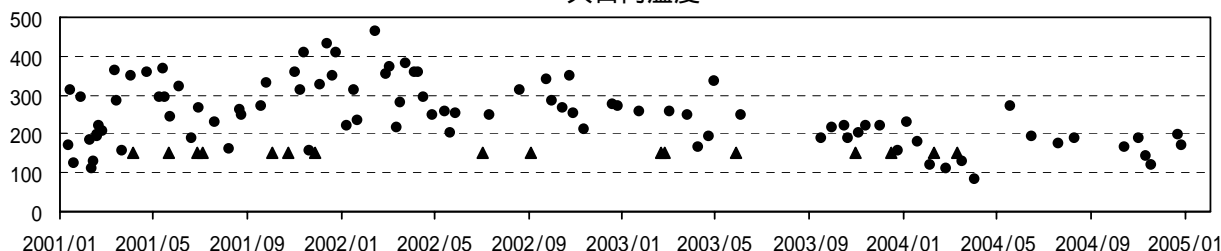
観測実施日	二酸化硫黄放出量(日量)	火口内最高温度	協力機関
1月11日	5,800トン 4,100トン 3,700トン 4,200トン 4,200トン	-	警視庁



注: は50000トン/日以上を表す。

図1 三宅島 二酸化硫黄放出量(2000年8月26日~2005年1月31日)

火口内温度



注: 火口底内の噴煙の状況により、実際より低い温度が観測されている場合がある。
注: は振り切れの観測値を示す。

図2 三宅島 火口内温度(2000年8月26日~2005年1月31日)

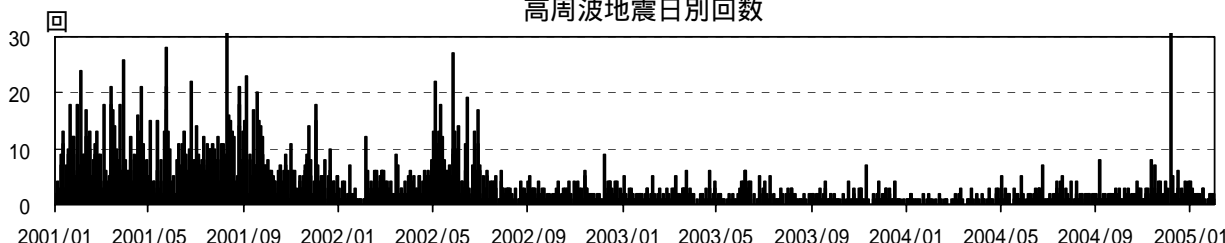
地震活動及び微動の発生状況

やや低周波地震の回数は、2002年後半から次第に増加し、2004年2, 4, 5月に一時的に減少したものの、今月もやや多い状態が続いています。一方、高周波地震と低周波地震の活動は一時的にやや多い状態がありました。(表3、図3 - ~)

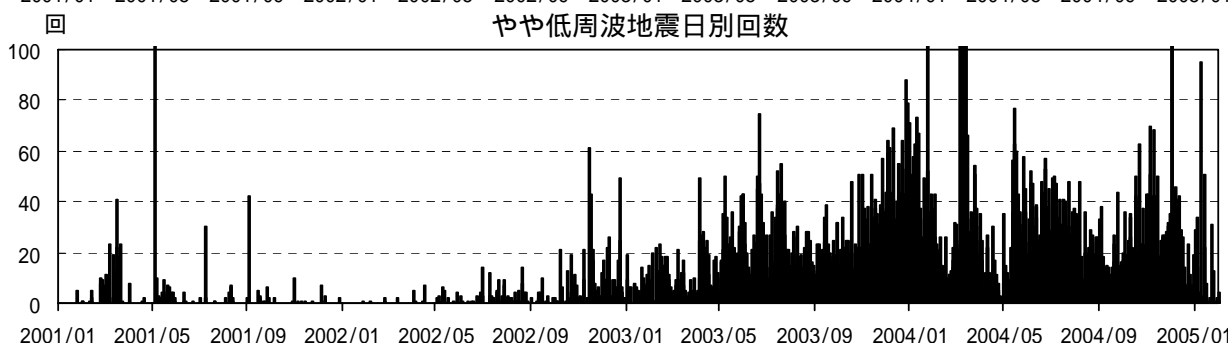
表3 三宅島 火山性地震日別回数表

三宅島														
上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日				旬計
高周波地震	0	3	1	2	1	2	1	2	2	0				14
やや低周波地震	10	29	34	1	14	4	1	1	95	0				189
低周波地震	4	0	6	0	0	0	0	0	2	0				12
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日				旬計
高周波地震	0	2	1	0	3	3	0	1	0	0				10
やや低周波地震	1	3	51	22	2	8	0	1	0	2				90
低周波地震	0	0	16	5	0	3	0	0	0	0				24
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計	
高周波地震	0	1	1	2	2	0	1	2	2	1	0	12	36	
やや低周波地震	0	31	2	13	0	2	1	0	1	2	4	56	335	
低周波地震	0	10	0	3	0	0	0	0	0	0	0	13	49	

高周波地震日別回数



やや低周波地震日別回数



低周波地震日別回数

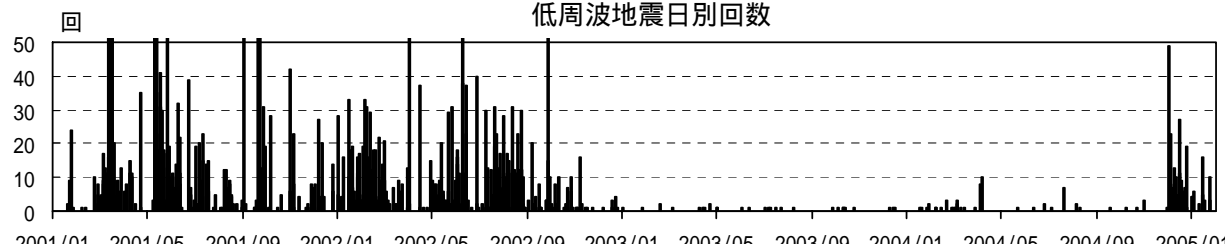


図3 三宅島 火山性地震活動経過図 (2001年1月1日~2005年1月31日)

連続微動の振幅は、2002年末から横ばい傾向が続いています(図4)。

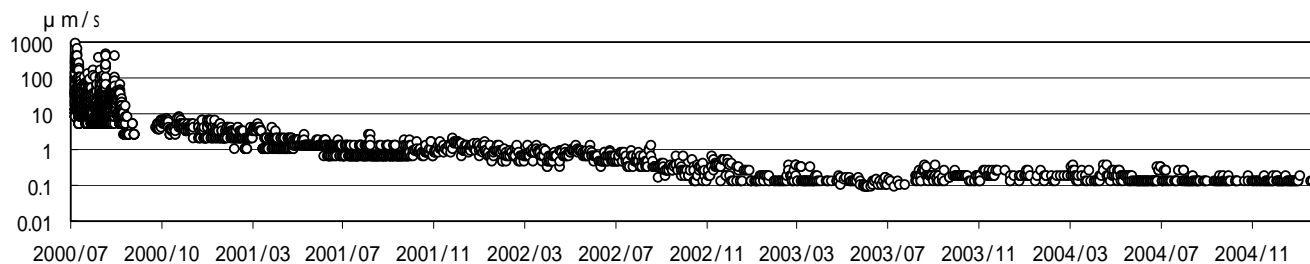


図4 三宅島 連続微動の振幅(2000年7月7日~2005年1月31日)

噴煙活動の状況

依然として活発な状態が続いています。

白色の噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口上1,000m(14,22日)でした(図5)。

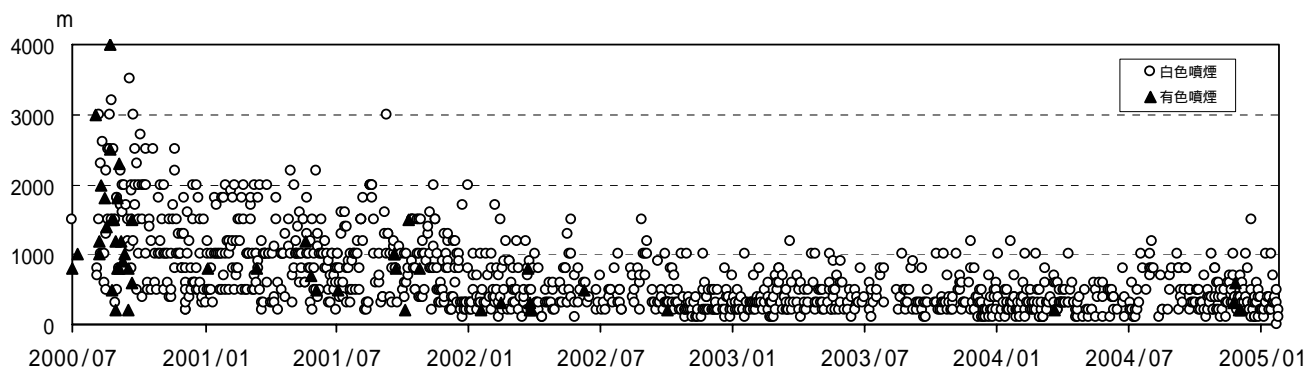


図5 三宅島 日最高噴煙高度(2000年7月8日~2005年1月31日)

地殻変動の状況

GPS観測によると、ゆっくりとした三宅島の収縮を示す地殻変動が継続しています(図6 -)。

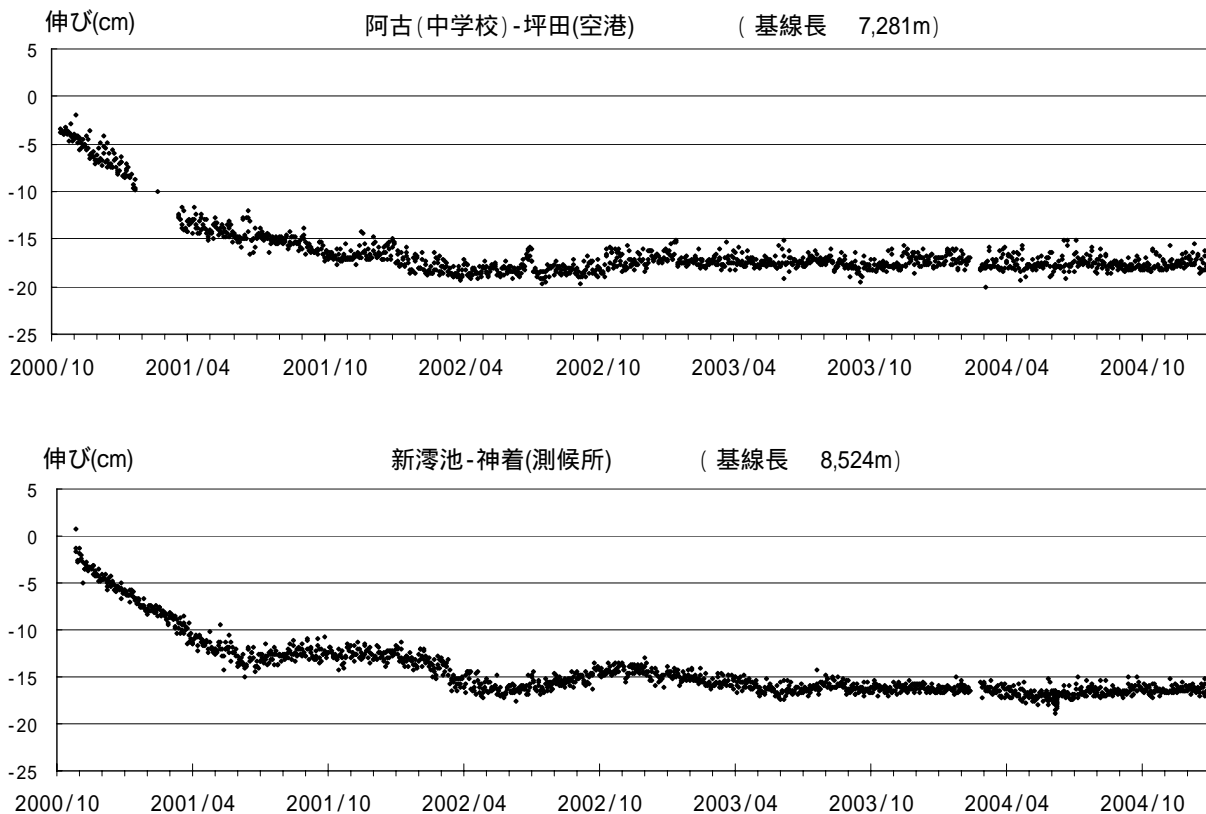


図6 三宅島 GPS観測結果(基線長変化) (2000年10月1日~2005年1月31日)

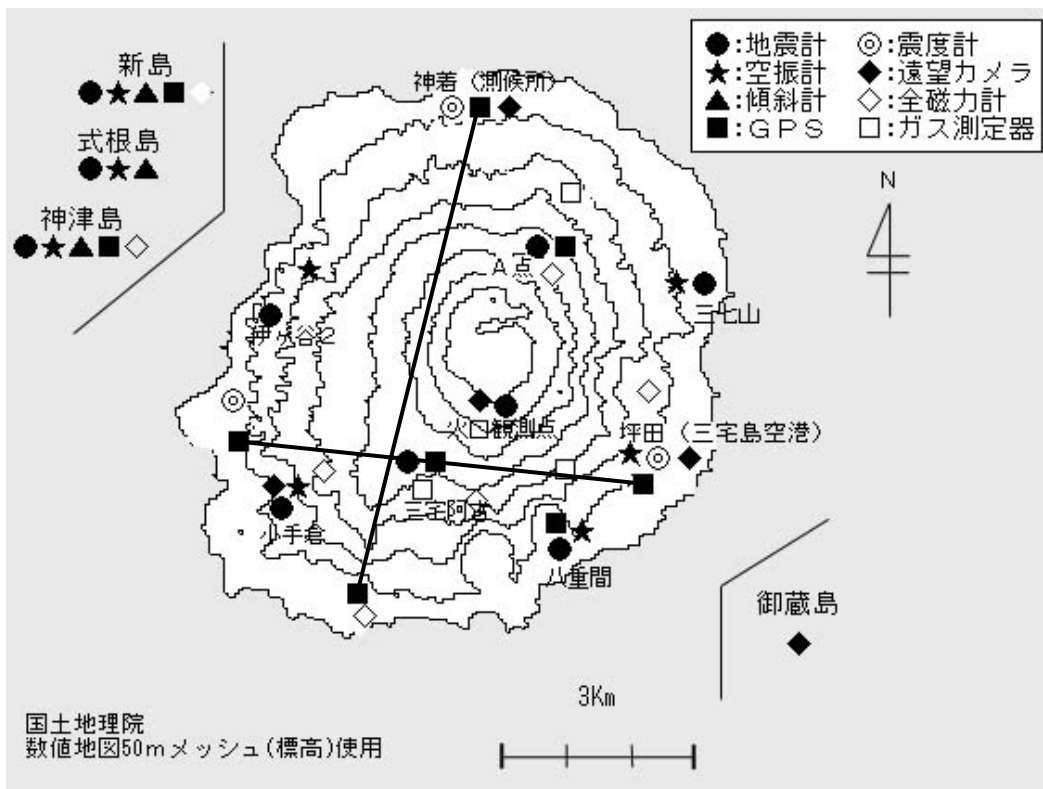


図6 三宅島 気象庁の観測点配置図